

陸の島 ISLANDS IN THE CITY

藤沢には江の島の他にも島がある。
起伏ある地形には開発の波を免れた緑が残り、
それらはさながら陸に浮かぶ島のようなものである。
陸の島には美しい眺望と土地の記憶が眠っている。
私たちは島の文脈に即した空間のデザインによって、
新たな藤沢のイメージを支える軸を生み出すことを試みた。

01. 陸の島とは



陸の島、伊勢山のスカッチ。まよまった島が目を引く



風景線としての陸の島。片瀬山から見える風景のスカッチ。木々の影から島の見える。

藤沢において江の島は卓越した存在である。海岸沿いに突き出たこの土地は古くから参勤、遊山の地として広く知られ、海沿いのまちとしての都市のイメージを形作ってきた。内陸にはこれに匹敵するような際立った土地は見られないが、私たちが陸にも島を眺めた。「陸の島」とは周りを人工物で囲われ内陸に建てられた高地であり、まるで灰色の海に浮かぶ島のように見える土地である。

すべての陸の島は、視対象としての可能性と視点

線としての優位性を持つ。満ちる市街地に浮き上がるまよった陸の島の緑は誘目性を持つため、島自体が視対象になり得る存在である。同時に、近地の市街地においては四方を建築物に囲われ見通しがかない状態がほとんどであるが、陸の島の上からは藤沢のまちと江の島や富士山といった象徴的な対象物を一望することができる。陸の島は、今はずっと意味のある土地として認識されているが、大きな面積が確保する場所である。

02. 陸の島の分布

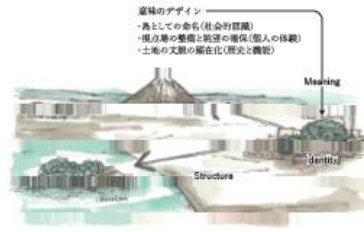


陸の島の位置は「土地の記号」と、「緑の分布」から導くことができる。

土地の記号を見ると、藤沢市を南北に大きく分ける相模野台地と鎌倉東部に位置する三浦丘陵の緑地帯に大きな高気圧が存在し、相模野台地は引地川明辺が谷地形となっている。両側の海岸平野には顕著な高気圧は見られないが、鎌倉側の海岸平野の環境によって形成された砂丘列が顕著な高地を形成している。

緑の分布を見ると、市全体にまばらに存在し、御所見、湘南大庭、片瀬地区にまとまった規模のものが見られる。
藤沢市内における陸の島は、北部には慶應義塾大学SPCといった谷戸に囲われ相模野台地と土地、南部には伊勢山緑地などの相模野台地及び三浦丘陵の緑地帯と海岸平野の砂丘列の一部として存在し、東西から両側にかけて連続して分布していることが分かる。

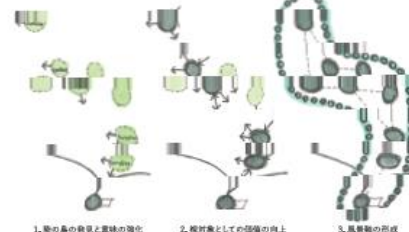
03. 意味が高める島の価値



ケヴィン・ランチは1960年の著書「都市のイメージ」において、環境のイメージはアイデンティティ：気分性、ストラクチャー・構造、ミーニング：意味の3つによって成り立つとした。彼は分析の初期段階ではミーニングを切り離して考えることも有用であるとし、アイデンティティをストラクチャーのみを解説した。ハード整備を中心としてきたこれまでのまちづくりもこの2つを主題として進めてきたが、成熟した現代の都市の風景を捉えるとき、ミーニングの果たす役割は大きい。

「陸の島」の環境のイメージは、人工物から浮かび上がる緑のまとまりとしてのアイデンティティ、島の位置関係としてのストラクチャー、社会的距離やそこで営まれる個人の体験、土地の歴史といったミーニングによって成り立つ。私たちはこの内のミーニングの強化を主目的として捉えた。そのため、大規模な形骸の解体や都市構造の改変は行わず、小さな高気圧帯や景観阻害要因の排除によって島の価値を高めることを試みた。知らぬ土地から眺望の名所へ、緑の丘から陸の島へ、小さな整備が意味を思ひ、意味が島の価値を高めている。

04. 風景軸：島がちな藤沢の風景



意味が変われば風景が変わる。よとした構図に内陸から見える江の島に代わって眺望を向けるのは、その高い眺望や海沿いの観光地といった意味があるからであり、富士山への眺望の確保には日本一の山としての意味が大きな役割を果たしている。このように、風景の価値は視対象の持つ意味と密接な関わりを持つ。もともと緑のまとまりとしての誘目性をもつ陸の島は、空間の改変により居住者や来訪者にとって意味の軸を生み出すこと、新たな視対象としての価値も向上する。

南北に連続して分布する陸の島が視対象として成熟し、ランドマークとなると藤沢に「風景軸」が形成される。風景軸とは、陸の島連しのイメージ上の結びつきであり、臨海部から内陸部までの藤沢のイメージを鮮明にする強固な骨格である。今までの藤沢は江の島という卓越した存在によって海沿いのまちのイメージが強かった。風景軸はまちのイメージを北部までつなぐ、新たな南北軸である。

05. ケーススタディ

ここでは、風動線を描く際の島を南北向きに5箇所抽出し、ケーススタディを行った

島の基準図面 S=15,000
0 50 100 200m



和の島
WADOSHIMA

(Survey) 和の島は伊勢山跡地を含む、面積3.4ha、高さ30mの土地であり、戦国時代の島を再現する場所である。戦国時代の島を再現する場所である。戦国時代の島を再現する場所である。戦国時代の島を再現する場所である。

(Design) この島が平和な島として復興することを目的として、戦国時代の島を再現する場所である。戦国時代の島を再現する場所である。戦国時代の島を再現する場所である。戦国時代の島を再現する場所である。



Scene1: 島の中心部にある木造の建物を復元し、島の歴史を伝える。

(Survey) 対の島は新林公園を含む、面積6.0ha、高さ50mの土地である。太古の時代には江の島とつながっており、ちょうど西側の隣りにあった島である。三浦半島の北側に位置し、島の西側には徳川が築いた、川原には保通住宅地が広がっている。島の西半分は総合公園であり、園内には古民家や田舎、急勾配のハイキングコースなどが存在し、ボードウォークなどが行われている。島のエントランスである南側の片山山北公園が南西奥山方面には、350mを超える空地が連続して広がっている。



対の島
TSUNOSHIMA

Scene2: ランドナーから対の島の島を自然に感じられる島、島の島が広がる



Scene3: アプローチとなる対の島を歩行者が歩ける距離の歩道を一貫させる



島の島が 再現図 S=12,000



Scene4: 島の中心部にある石造の建物を復元し、島の歴史を伝える。



Scene5: 島の中心部にある木造の建物を復元し、島の歴史を伝える。



五の島
GONOSHIMA

(Survey) 城の島は大層城址公園を含む、面積8.4ha、高さ30mの土地であり、今もなお城址が残る島である。島の東側には引込川、西側には小川が流れている。北西側は保通住宅、南東側は徳川が築いた、島の西半分は総合公園であり、園内には古民家や田舎、急勾配のハイキングコースなどが存在し、ボードウォークなどが行われている。島のエントランスである南側の片山山北公園が南西奥山方面には、350mを超える空地が連続して広がっている。

(Design) この島の島を自然に感じられる島、島の島が広がる



Scene6: 島の島を歩行者が歩ける距離の歩道を一貫させる

(Survey) 五の島は片山山公園を含む面積21.4ha、高さ60mの土地であり、五つの頂上層をもつ島である。片山の南側に位置し、西は保通住宅地であり、東は保通住宅地とつながっている。島の東側には引込川、西側には小川が流れている。北西側は保通住宅、南東側は徳川が築いた、島の西半分は総合公園であり、園内には古民家や田舎、急勾配のハイキングコースなどが存在し、ボードウォークなどが行われている。島のエントランスである南側の片山山北公園が南西奥山方面には、350mを超える空地が連続して広がっている。

(Design) この島の島を自然に感じられる島、島の島が広がる



城の島
KINOSHIMA

島の島が 再現図 S=13,000



Scene8: 島の中心部にある石造の建物を復元し、島の歴史を伝える。



遺の島
INOSHIMA

島の島が 再現図 S=12,000